

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
解剖学Ⅲ		小野寺 悟	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法
2年・通年		60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	中枢神経系・末梢神経系の理解、頭頸部・胸腹背部・上肢・下肢の筋と神経の理解、感覚器としての外皮・視覚器・聴覚器・平衡器・味覚器・嗅覚器の理解、体表解剖・映像解剖の把握を目的とする。		
目標	1. 中枢神経系の構造を立体的に把握し説明できる。末梢神経系では脳神経・脊髄神経の経路とその運動器・感覚器との関係を把握し、自律神経系とその効果器の関係を説明できる。2. 感覚器系では外皮・視覚器・聴覚器・平衡器・味覚器。嗅覚器について説明できる。3. 体表解剖と映像解剖について理解し、応用できる。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	前期 1回～15回 1回～9回 中枢神経の構造 10回～12回 伝導路 13回 脳神経 14～15回 脊髄神経 後期 1回～15回 1回 自律神経系 2～3回 頭部・頸部・体幹の筋と神経 4～5回 上肢の筋と神経 6～7回 下肢の筋と神経 9回 外皮 10～12回 特殊感覚 13～14回 体表解剖 15回 映像解剖		授業開始時に前回の授業で学習した問題演習(小テスト)を行う。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		解剖学(改訂第2版)ほか毎回講義内容のプリントを配布する。	
		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
解剖学Ⅳ		小野寺 悟	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	「解剖学Ⅳ」では、正常な人体の形態・構造についての総復習を行い、医療科学分野における専門知識と技術を修得するための基礎とする。人が健康な生活をおくるためには、健康の維持・増進と疾病予防の科学的・合理的知識が必要であり、その基準となる正常な構造や機能を十分理解することを目的とする。		
目標	1. 過去問の答えの暗記ではなく、考えて解く技術を身に付ける。 2. ①予習 ②授業 ③毎回の小テストのための復習 ④定期試験と繰り返しの学習によって基礎力を強化する		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	今まで学修してきたことを総復習することにより国家試験合格につなげる。 1. 人体解剖学概説 2. 運動系 3. 脈管系 4. 内臓系 5. 内分泌系 6. 神経系 7. 感覚器 8. 体表解剖		授業開始時に前回の授業で学習した問題演習(小テスト)を行う。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		解剖学（改訂第2版）ほか毎回講義内容のプリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
生理学Ⅲ		高島 浩一郎	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／4単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	体の各部分の働きと仕組みを深く理解することにより、自分の言葉でまとめたり、人にわかりやすく説明したり、問題を解くことができる。これにより、他の教科の理解も進むし、患者の診療や治療を科学的に行えるようになることが期待される。		
目標	知識: 体の各部分の働きと仕組みを理解し、患者さんに簡単に説明できる。 態度: 体の各部分の働きと仕組みを踏まえて、患者さんを診ることができる。 技能: 体の各部分の働きと仕組みに合わせて、患者さんを治療できる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	第1回～第5回: 筋の種類と収縮の仕組み 第6回～第13回: 神経系により情報を処理する仕組み 第14回～第19回: 身体を動かす仕組み 第20回～第28回: 感覚により情報を受け入れる仕組み 第29回～第30回: 免疫により身体を守る仕組み	教育方法は主に講義であるが、ドリルなども使う。 <u>身体の働きと仕組みを、単に暗記するのではなく、深く理解することが大切である。自分の言葉でノートにまとめたり、他人にわかりやすく説明できたり、問題が解けたりすれば、理解できたと言える。理解は少しずつしか深まらないので、理解しにくい頻出事項は、より基本となることを、調べたり、人に聞いたりしてほしい。</u>	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
試験の結果を主に、ドリル点を加味して評価する。		生理学(南江堂)を教科書とし、手製プリントを参考資料として配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
生理学Ⅳ		三條 敏也	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	人体を構成する各器官系について基礎知識を習得し、生理学的機能を理解する。		
目標	1. 生理学の重要用語について説明できる。2. 教科書中の主要な図について説明できる。3. 教科書中の主要な表について説明できる。4. 国家試験形式の問題演習に取り組み、受験準備を行うことができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	生理学の各章のうち、生理学の基礎、血液、免疫系、循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、栄養と代謝、神経の電氣的性質、中枢神経系、12脳神経、自律神経系、下行性伝導路、体性感覚、特殊感覚、及び骨格筋。	授業プリントのファイル作成を行うこと。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。		生理学 改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			
専門学校での授業等の実務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
運動学		奥平 柁道	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・前期	30時間／1単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師に必要な、人間の運動に関わる身体の機能と構造について学ぶ。		
目標	1. 身体の運動の正しいメカニズムを理解すること。 2. 臨床現場で遭遇する故障と運動の関わりについて個別理解できるようにする。 3. 国家試験に合格する知識をつけること。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	運動学の目的、運動の表し方、身体運動と力学、運動器の構造と機能、神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢の運動、体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習などの内容を学び、正常時の身体の機能について理解する。	知識に関して: 関節に正しい動作とそれを支える筋肉の働きについて説明できる。 態度に関して: 正しい動作を自分自身で行うことができる。 技能に関して: 身体の正しい動作を理解した上で治療を行う力を身につける。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
中間試験及び期末試験の結果を基に、出席状況、出席態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 運動学(改訂第3版)	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
高齢者の生理学的特徴・変化		三條 敏也	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・後期	15時間／1単位／8回	講義	
授業概要 (目的)	高齢者の生理学的特徴、高齢者に多い疾患・障害について基礎知識を習得する。		
目標	1. 高齢者の生理学的特徴について説明できる。 2. 加齢に伴う主な人体機能の変化について説明できる。 3. 高齢者に多い疾患・障害について説明できる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	加齢に伴う人体機能の変化(神経系、運動器系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、消化器系、皮膚)、高齢者に多い疾患・障害(フレイル、サルコペニア、認知症、骨粗鬆症、転倒、睡眠障害など)、加齢と運動との関係。	授業プリントをファイルすること。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
別途定める「成績評価の方法と基準」に従い、当該科目の評価に必要な評価項目を選択し、それぞれの評価割合を設定します。 (例)筆記試験による評価、試験、レポート等による総合評価等		授業で使用する教科書、教材、参考書等を記載します。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
競技者の生理学的特徴・変化		奥平 柁道	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・後期	15時間／1単位／8回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師に必要な、発育・発達に伴う身体機能の変化について学ぶ。		
目標	1. 成長に伴う身体の発育・発達に関して正しく理解すること。 2. 競技者のトレーニング後の身体の変化に関して理解すること。 3. 国家試験に合格する知識をつけること。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	成長に伴うからだや運動能力の発達 (小児から青年期の発育曲線、小児期から青年期の発育の特徴、小児期から青年期の呼吸循環機能と運動、発育期の運動不足・過運動の影響、運動の発達と習熟) 競技者の生理学的特徴・変化 (トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化、トレーニングによる神経機構の変化、トレーニングによる姿勢調節能力の変化、眼球運動と姿勢制御) 上記の内容を学び、発育・発達に伴う身体機能の変化について理解する。	知識に関して:成長に伴う様々な事柄について正しく理解し、説明できる。 正しいトレーニング方法を理解し説明できる。 態度に関して:正しいトレーニング方法を自身でも行うことができる。 技能に関して:発育発達及び正しいトレーニング方法を理解した上で怪我を起こさないような身体のケア方法を指導する力を身につける。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
期末試験の結果を基に、出席状況、出席態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 生理学(改訂第4版)	
担当教員の実務経験の有無		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
病理学		三條 敏也	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	疾病の原因・各種の疾患の基礎知識を習得させる		
目標	1. 病理学の重要な知識習得に努め、疾病に関する理解を深める。 2. 国家試験形式の問題演習に取り組み、受験準備を行うことができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1章 病理学とは 2章 疾病の一般 3章 細胞障害 4章 循環障害 5章 進行性病変 6章 炎症 7章 免疫 8章 腫瘍 9章 先天異常 10章 病因	授業プリントのファイル作成を行うこと。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。		病理学概論(医歯薬出版)、授業プリント	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			
専門学校での授業等の実務経験あり。研究用の病理標本を作製、一般染色や特殊染色を実施。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
一般臨床医学Ⅱ		小野寺 悟	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	検査法を理解でき、臓器別各論について解剖学的構造と結び付けて説明できる。		
目標	1. 検査法について説明できる 2. 臓器別疾患各論の各項目の疾患を列挙できるようになる 3. 特に、解剖学的構造に基づいて、各疾患の成因を説明できる		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	前期 1回 検査法 2～4回 消化器疾患 6～7回 呼吸器疾患 9～10回 循環器系の解剖学復習 11～13回 循環器疾患 14～15回 血液疾患 後期 1～2回 内分泌疾患 4回 代謝疾患 5回 膠原病 6～7回 腎尿路疾患 9～10回 神経解剖学の復習 11～13回 神経系疾患 14回 感染症 16回 その他の疾患	授業開始時に前回の授業で学習した問題演習(小テスト)を行う。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		一般臨床医学 改訂第3版 医歯薬出版 ほか毎回講義内容のプリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
外科学概論		小野寺 悟	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	総論の各項目について明確に説明できる。 各論については各疾患にたいして適切な救急法を判断できる		
目標	1. 総論の各項目を理解し説明できる 2. 各論の一般外科各項目を理解し、とくに救急法を適応を判断できるようになる		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	前期 外科学とは 1 損傷 A 損傷 B 創傷 C 熱傷 2 炎症と外科感染症 A 炎症 B 外科感染症 3 腫瘍 A～L 4 ショック 5 輸血と輸液 A 輸血 B 一般輸血 C 高カ リー輸液 6 消毒と滅菌 7 手術 8 麻酔 後期 9 移植と免疫 10 出血と止血 11 心肺蘇生法 12 脳神経外科 13 甲状腺・頸部疾患 14 胸壁・呼吸 器疾患 15 心臓・脈管疾患 17 腹部外科疾患	講義 授業開始時に前回の授業で学 習した問題演習(小テスト)を行う。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、 授業態度を加味して評価する。		外科学概論 改訂第4版 医歯薬出版 ほか毎回講義内容 のプリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
整形外科科学		小野寺 悟	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	総論においては、運動器の基礎知識、診察方、検査法、治療法について、理解出来る様になり、各論においては、解剖学的知識に裏打ちされた知識を習得する事を目的とする。		
目標	1. 総論においては、運動器の基礎知識、診察方、検査法、治療法について、理解し、2. 疾患別各論においては、特に一般臨床医学の知識を踏まえながら各疾患の特徴を十分に理解し、3. 身体部位別各論においては、解剖学的知識に裏打ちされた知識を習得する事を目的とする。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	総論 1運動器の基礎知識 2整形外科診察法 3整形外科検査法 4整形外科的治療法 5骨・関節損傷総論 6スポーツ整形外科総論 7リハビリテーション総論 各論 8疾患別各論 A感染性疾患 B骨および軟部腫瘍 C非感染性軟部・骨関節疾患 D全身性の骨・軟部疾患 E骨端症 F四肢循環障害 G神経・筋疾患 9身体部位別各論 A体幹 A-1頸部 A-2胸部 A-3腰部 B肩甲帯および上肢の疾患 B-1肩・肩甲帯 B-2上腕・肘関節 B-3前腕 B-4手関節 B-5手・手指 C骨盤および下肢の疾患 C-1骨盤・股関節 C-2大腿・膝関節 C-3下腿・足関節 C-4足・足趾		講義
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		整形外科科学（改訂第4版）ほか毎回講義内容のプリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
リハビリテーション医学		上濱 龍也	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法
2年・通年		60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	リハビリテーションの概念、障害学、評価法や治療技術、高齢者理解などリハビリテーション医学の基本及びリハビリテーションスポーツについて理解できるとともに、柔道整復師とのかかわりについて考えることができる。		
目標	1. リハビリテーションの理念や対象、障害者の実態や階層とアプローチについて説明できる。 2. リハビリテーションに関わる領域としての評価学や障害学、治療学、さらに高齢者、運動器などに対するリハビリテーションについて説明できる。 3. リハビリテーションに関連する職種、福祉について説明できるとともに、障害者スポーツについても説明することができる。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	第1回 リハビリテーションの理念 第2回 リハビリテーションの対象と障害者の実態 第3回 障害者の階層とアプローチ 第4～6回 リハビリテーション評価学 第7回 第1～6回のふりかえり 第8～11回 リハビリテーション障害学と治療学 第12回 リハビリテーション医学の関連職種 第13～14回 リハビリテーション治療技術 第15回 第8～14回のふり回り 第16回 試験の解説及び前期のまとめ 第17～19回 リハビリテーション治療技術 第20～22回 高齢者のリハビリテーション 第23回 第17～22回のふり回り 第24～28回 運動器のリハビリテーション 第29回 リハビリテーションと福祉 第30回 障害者スポーツ 第31回 第24～30回のふり回り 第32回 試験の解説及び後期のまとめ		毎時、講義内容ならびに配布資料により復習を行う。また、次回講義範囲について、テキストを読むなど予習を行う。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
中間試験及び期末試験により評価を行う。		リハビリテーション医学 改訂第4版(南江堂)	
担当教員の実務経験の有無		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
柔道整復術の適応		小野寺 悟	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・前期	30時間／2単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	適切な柔道整復術を行うため、柔道整復が適応されるか否かの判断能力を養う。		
目標	1. 適正な病態の把握ができる 2. 柔道整復師と整形外科医が連携して、運動器疾患の治療に貢献する		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1 回 1～2. 損傷に類似した症状を示す疾患 A 内臓疾患の投影を疑う疼痛 2 回 B 腰痛を伴う疾患 3 回 C 化膿性の炎症など～ 4 回 3. 血流障害を伴う疾患 5 回 4. 末梢神経損傷を伴う損傷 6 回 ～4. ～5. 脱臼骨折 7 回 6. ～7. 病的骨折および脱臼 8 回 中間試験解説授業 9 回 脳について（解剖学復習） 1 0 回 8. 意識障害を伴う損傷 1 1 回 脳挫傷～ 1 2 回 脊髄について（解剖学復習） 1 3 回 9. 脊髄症状のある損傷 1 4 回 1 0. ～1 1. 内臓損傷の合併が疑われる損傷 1 5 回 骨盤骨折～1 2. 高エネルギー外傷 1 6 回 期末試験解説授業	授業開始時に前回の授業で学習した問題演習(小テスト)を行う。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		医療の中の柔道整復(第1版) 他毎回講義内容のプリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
関係法規Ⅰ		鈴木 星子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・前期	15時間／1単位／8回	講義	
授業概要 (目的)	法の意義・体系、柔道整復師法ほか関係法規、患者の権利、リスクマネジメント、医療事故と医療過誤について理解し知識を身につける。		
目標	1. 法の意義・体系について理解し、説明ができる。 2. 柔道整復師法ほか関係法規について理解し説明ができる 3. 医療事故・医療過誤の違いやリスクマネジメントについて理解し説明ができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1. 序論(1回) 2. 柔道整復師法(3回) 3. 関係法規(3回)	・教科書をベースにプリントを活用し理解を深める。 ・演習問題を行い、授業内容の理解を深める。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		関係法規 2025年版(医歯薬出版) プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
関係法規Ⅱ		松岡 靖	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法
3年・後期		30時間／1単位／15回	講義
授業概要 (目的)	柔道整復師法を中心に、他医療職種の資格法(医師法、保健師助産師看護師法など)や医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規、個人情報の保護に関する法律などを理解し、国家試験必修問題レベルの知識を身に付けることを目的とする。		
目標	1. 柔道整復師法や諸関係法規についての国家試験必修問題を確実に正答することができる。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	1回:序論 2回～6回:柔道整復師法とその関連内容 7回:試験前まとめ 8回:解説授業 医療従事者の資格法 9回～10回:医療法、社会福祉関連法規、社会保険関連法規、その他の関係法規 11回～13回:総復習 14回:年度末小テスト 15回:小テスト解説・年間まとめ		講義形式 授業終了時に同日の授業で学習した範囲の問題演習を行う。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験・年度末小テストにてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 関係法規(2023年版)(医歯薬出版)ほか、資料プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
医療概論		鈴木 星子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・後期	15時間／1単位／8回	講義	
授業概要 (目的)	1. 患者の権利、医療の安全について学ぶ。 患者が医療行為を受けるか否かを自ら決定する選択の自由と自己決定権について、 医療事故や医療過誤を防ぐためのリスクマネジメントについて学ぶ。 2. 社会保障と医療経済について学ぶ。 社会保障制度、社会福祉制度、国民医療費、柔道整復師と療養費について理解する。		
目標	1. 患者の権利を尊重し、医療の安全について積極的に考え行動できる医療人を育成する。 2. 社会保障制度、社会福祉制度、国民医療費、療養費などを理解し、正しく運用できる医療人を育成する。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	①社会保障制度 2回 ②医療保障制度 2回 ③療養費制度 2回 ④患者の自己決定権 2回		・必要に応じてプリントを配布、Power Pointなども利用しながら授業を進める。 ・内容の理解度を演習問題で確認しながら進める。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験(後期中間試験)の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(医歯薬出版)	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
柔道 I		渡部 康光	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・後期	30時間／1単位／15回	実技	
授業概要 (目的)	柔道の基本的な礼法や技法を習得し初段を目標にし、心身の鍛錬を通して、柔道整復師としての人格の陶冶を目的とする		
目標	1. 初段取得を目標とする。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	道場にて準備運動、補強運動を行い、礼法、受身、投の形、約束乱取を行う。		基礎体力をつけ、けがのないよう指導する。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
実技試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。		柔道着	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
柔道Ⅱ		渡部 康光/菅原 めぐみ	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・通年	60時間／2単位／30回	実技	
授業概要 (目的)	柔道の基本的な礼法や技法を習得し初段を目標にし、心身の鍛錬を通して、柔道整復師としての人格の陶冶を目的とする。		
目標	1. 初段取得を目標とする。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	道場にて準備運動、補強運動を行い、礼法、受身、投の形、約束乱取を行う。	基礎体力をつけ、けがのないよう指導する。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
実技試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。		柔道着	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
職業倫理		山田 姫	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・後期期末	15時間／1単位／8回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師が果たすべき役割や職業観、医の倫理について学ぶ。		
目標	技能:実施する、調べる、準備する、正しい職業倫理感を身につける。 ケース・スタディやグループ・ディスカッションを通して様々な人の考えに触れながらコミュニケーションをとる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	(1～8回) A医療従事者の職業倫理 B柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 ①患者への説明 ②医療従事者における守秘義務 C柔道整復師の社会的責任と対応 Dグループ・ディスカッション事例 E医療における情報と責任	理解を深めるためにまとめプリントや各種模型を使用する。 理解度の確認のために演習問題などで確認しながら進める。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
筆記試験による評価、試験、レポート等による総合評価等		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 衛生学・公衆衛生 国家試験過去問題集	
担当教員の実務経験の有無		無	
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門基礎分野	
科目名		講師名	
社会保障制度		鈴木 星子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・前期	15時間／1単位／8回	講義	
授業概要 (目的)	わが国の社会保障制度の概略と、柔道整復療養費支給申請及び受領委任制度について理解し、知識を身につける。		
目標	1. 社会保障制度について理解し、説明ができる。 2. 柔道整復療養費支給申請及び受領委任制度について理解し説明ができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1. 社会保障制度について(3回) 2. 療養費制度について(1回) 3. 患者の権利について(2回)	・教科書をベースにプリントを活用し理解を深める。 ・演習問題を行い、授業内容の理解を深める。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(医歯薬出版)プリントなど	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復学Ⅲ		佐々木 智章	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	総論で学んだ知識を基礎として、具体的に各部位の損傷に関する知識の獲得を目的とする。		
目標	1. 症状等から損傷部位・損傷程度を想定することができる。2. 損傷名から想定可能な臨床所見を挙げて説明することができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	頸椎骨折/胸椎骨折/腰椎骨折/胸骨骨折/肋骨骨折 鎖骨骨折/肩甲骨骨折/上腕骨近位端部骨折/上腕骨骨幹部骨折/上腕骨遠位端部骨折 前腕骨近位端部骨折/前腕骨骨幹部骨折/前腕骨遠位端部骨折/手根骨骨折/指骨骨折/中手骨骨折	教科書を基に、板書および対話形式、授業の補助資料としてプリント配布	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験(4者択一、4者択二、記述)による		テキスト・教材・参考書 柔道整復学(理論編および実技編) 適宜プリント配布	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復学Ⅳ		鈴木 星子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	臨床で患者様に丁寧にわかりやすく症状や施術内容を説明できる力を身につける。		
目標	1. 頸部、胸・背部、腰部の脱臼、軟部組織損傷について、上肢の脱臼、軟部組織損傷、その他必要な鑑別を要する類症についての知識を身につける。 2. 実際に臨床現場での問診、視診、触診などの施術の際の基礎知識として応用できる力を身につける。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1. 脱臼(16回) 2. 軟部組織損傷(16回)	・教科書を中心に講義し、教科書記載事項の理解を深めるためにプリントを作成する。 ・授業では練習問題を取り入れ、反復学習で内容理解の定着を図る。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		柔道整復学(理論編・実技編) プリント など	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
外傷の保存療法		高橋 滋美	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・後期	30時間／2単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復学と整形外科の保存療法を包括的に学び、国家試験問題を正答できる知識を身に付けることを目的とする。		
目標	柔道整復師が行う保存療法について、柔道整復学と整形外科を横断的に学び、国家試験問題を確実に正答することができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1回:運動器の基礎知識 2回:整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科的治療法 3回:骨・関節損傷総論(柔道整復術との比較)、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論 4回～6回:疾患別各論 7回:試験前まとめ 8回:解説授業 9回～13回:身体部位別各論 14回:年度末小テスト 15回:小テスト解説・年間まとめ	授業終了時に同日の授業で学習した範囲の問題演習を行う。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験の成績、出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 整形外科(南江堂) ほか、資料プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復学Ⅴ		西村 卓一	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法
2年・通年		60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	3年次に控える国家試験を見据え、下肢外傷の実際を学習し負傷の要点を理解する事により、下肢外傷問題を考察できる知識の習得を目的とする。		
目標	1. 下肢損傷に関する病態を理解できる。 2. 臨床現場で活用できる治療法を理解できる。 3. 国家試験レベルの問題が解ける。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	第Ⅲ章 各論 1－3. 下肢の骨折15回 A. 骨盤骨骨折 B. 大腿骨骨折 C. 膝蓋骨骨折 D. 下腿骨骨折 E. 足・足趾骨折 2－3. 下肢の脱臼3回 A. 股関節脱臼 B. 膝蓋骨脱臼 C. 膝関節脱臼 D. 足部の脱臼 3－3. 下肢の軟部組織損傷12回 A. 股関節の軟部組織損傷 B. 大腿部の軟部組織損傷 C. 膝関節部の軟部組織損傷 D. 下腿部の軟部組織損傷 E. 足関節部の軟部組織損傷 F. 足・足趾の軟部組織損傷		教科書をわかりやすく図解したプリントを使用して講義を行う。 →要点のまとめプリントを行わせ、授業で解説を行う。 →演習問題(国試の傾向に沿った実践練習)を課題として行わせ、授業で解説を行う。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		柔道整復学・理論編改訂第7版 同・実技編改訂第2版、他プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		有	
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復学Ⅵ		露久保 範昭	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法
3年・通年		60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	国家試験合格を目標とすること 資格取得後、臨床現場において実践できるようにすること		
目標	1. 国家資格取得後、臨床現場での対応が出来る 2. インフォームドコンセントの対応ができる 3. 知識、技術の習得により臨機応変な対応ができる		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	1. 鎖骨骨折 (1) 2. 肩甲骨骨折 3. 上腕骨近位端部骨折(1) 4. 上腕骨近位端部骨折(2) 5. 上腕骨骨幹部骨折(1) 6. 上腕骨骨幹部骨折(2) 7. 試験前まとめ 8. 上腕骨遠位端部骨折(1) 9. 上腕骨遠位端部骨折(2) 10.上腕骨遠位端部骨折(3) 11.鎖骨脱臼 12.肩関節脱臼(1) 13.肩関節脱臼(2) 試験前まとめ 16.解説 1. 肘内障 前腕骨近位端部骨折 2. 前腕骨近位端部骨折(2) 3. 前腕骨骨幹部骨折(1) 4. 前腕骨骨幹部骨折(2) 5. 前腕骨遠位端部骨折(1) 6. 前腕骨遠位端部骨折(2) 7. 試験前まとめ 8. 手根骨骨折 9. 中手骨骨折 10.手指骨骨折 11.手指脱臼 12.上肢軟部組織損傷(1) 13.上肢軟部組織損傷(2) 14.上肢軟部組織損傷(3) 15.上肢軟部組織損傷(4)		臨床対応能力の向上 応用能力の習得
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		柔道整復学(理論編・実技編) プリント資料	
担当教員の実務経験の有無		有	
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院勤務 接骨院開業 介護施設開業。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復学Ⅶ		鈴木 星子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・通年	60時間／2単位／30回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復学総論と下肢損傷について学習し、国家試験合格に向けた内容とするとともに資格取得後の現場で対応出来る知識を身につける		
目標	1. 総論と下肢損傷について基本的な知識を身につける。 2. 応用問題に対応できる内容を理解する。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1. 柔道整復学 総論(10回) 2. 柔道整復学 下肢骨折(10回) 3. 国試対策(10回)	・総論・下肢(骨折)全範囲の復習をし、最終確認を行う。 ・練習問題を行い問題の出題傾向を把握する。 ・演習問題を実施し、60%以上の正答率を出せるよう指導解説を行う。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		柔道整復学(理論編・実技編) プリントなど	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
特別講義 I		松岡 靖	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・前期	30時間／1単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師が損傷に類似した疾患との鑑別を行うために、一般臨床医学範囲の病態について理解し、判断するための基礎的素養を身に付ける。		
目標	1. 診察についての流れとそれぞれの診察法の特徴について理解し、適切な正答枝を選択することができる。 2. 主要な疾患についての特徴について理解し、適切な正答枝を選択することができる。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	1回: 診察概論		講義形式
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
2回の定期試験にてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学(改訂第3版)(医歯薬出版)ほか、資料プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		有	
実務経験の内容			
柔道整復師として岩手県内の接骨院にて勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
特別講義Ⅱ		高橋 滋美	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・前期	30時間／1単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	各疾患の病態を理解することによって、臨床現場において鑑別をするための知識を身につける。		
目標	1. 疾患の分類を理解することができる。 2. 疾患の分類や臨床症状について理解することができる。 3. 柔道整復師の適応疾患か否かを鑑別することができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1章 病理学とは(1回) 2章 疾病の一般(1回) 3章 細胞障害(2回) 4章 循環障害 (3回) 5章 進行性病変(4回) 6章 炎症(5回) 7章 免疫(6回) 8章 腫瘍(8回) 9章 先天異常(9回) 10章 病因(10回) 総合演習問題(11～15回)	・教科書を要約したプリントを配布し、 パワーポイントにて講義を行う。 ・講義を始める前に、前の週の確認試験を行い。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験、出席状況、授業態度を加味して総合評価を行う。		病理学 改訂第3版	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
特別講義Ⅲ		松岡 靖	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・前期	30時間／1単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師が鑑別診断を行うのに必要な生理学的特徴について、総合的に理解を深める事を目的とする。		
目標	1. 生命現象や生体機能の仕組みを学ぶことを通じて、人体の機能系統の器官と働きを理解し、適切な正答枝を選択することができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1回:実力試験解説	講義形式	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
2回の定期試験にてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 生理学(改訂第4版)(南江堂)ほか、資料プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として岩手県内の接骨院にて勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
特別講義Ⅳ		西村 卓一	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・前期	30時間／1単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	リハビリテーション医学の基礎、応用的な知識の定着を目的とする。		
目標	1. 疾患別に特徴的症状や治療法などを想起することができるようになる。 2. 臨床現場で活用できる知識を理解できる。 3. 国家試験レベルの問題が解ける。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1. リハビリテーション理念、対象と障害の階層1回 2. リハビリテーション評価学3回 3. リハビリテーション治療技術1回 4. リハビリテーション障害学と治療学6回 5. リハビリテーション医学関連職種1回 6. 高齢者のリハビリテーション3回	教科書をわかりやすく図解したプリントを使用して講義を行う。 →要点のまとめプリントを行わせ、授業で解説を行う。 →演習問題(国試の傾向に沿った実践練習)を課題として行わせ、授業で解説を行う。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		リハビリテーション医学 改訂第4版 他プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院にて勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
特別講義 V		渡部 康光	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・前期	30時間／1単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師が鑑別診断を行う上で必要な様々な病態の知識の習得を目的とする。		
目標	柔道整復師として鑑別診断ができ、病態を説明できるようになる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	感染性疾患 骨および軟部腫瘍、非感染性軟部 骨関節疾患 全身性の骨・軟部疾患 骨端症、四肢循環障害 神経・筋疾患		
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。		整形外科学改訂第4版(南江堂) プリント配布	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院にて勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
特別講義Ⅵ		松岡 靖	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・後期	30時間／2単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師が損傷に類似した疾患との鑑別を行うために、一般臨床医学範囲の病態について理解し、判断するための基礎的素養を身に付けることができる。		
目標	1. 診察についての流れとそれぞれの診察法の特徴について理解し、適切な選択をすることができる。 2. 主要な疾患についての特徴について理解し、適切な選択をすることができる。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	1回: 主要な疾患(肝胆膵疾患)		講義形式
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験・年度末小テストにてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学(改訂第3版)(医歯薬出版)ほか、資料プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として岩手県内の接骨院にて勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
特別講義Ⅶ		松岡靖・佐々木智章・西村卓一・鈴木星子・山田姫	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・集中	50時間／2単位／25回	講義	
授業概要 (目的)	夏期特訓講座にて国家試験科目の強化を図り、合格できるよう基礎力・応用力を高める。		
目標	1. 必修問題の内容について理解し、適切な選択をすることができる。 2. 必修問題の演習において、正答率80％以上取得することができる。 3. 一般問題の内容について理解し、適切な選択をすることができる。 4. 一般問題の演習において、正答率60％以上取得することができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1回～25回: 必修問題(柔道の歴史、医療概論、関係法規、社会保障制度と職業倫理、柔道整復理論)、解剖学、生理学、運動学、病理学、衛生学、リハビリテーション医学、一般臨床医学、外科学、整形外科及び柔道整復理論の内容について、「柔道整復師国家試験出題基準 2022年版」(医歯薬出版株式会社)をもとに弱点補強を行う。	講義形式	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
出席状況、授業態度等により総合的に評価する。		各教科使用教科書 ほかプリント配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			
柔道整復師として勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復術適応の臨床的研究		鈴木 星子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・後期	30時間／2単位／15回	講義	
授業概要 (目的)	柔道整復師が施術を行うにあたり、施術範囲外の疾患との鑑別は大変重要である。 様々な損傷について医学・柔道整復学の見地から総合的に学習し、将来臨床現場で適切に鑑別できる 知識の習得を目的とする。 また、医用画像について理解を深め、読影の基本能力を身に付ける。		
目標	1. 柔道整復師の施術範囲外の疾患について理解する。 2. 医用画像(単純X線、CT、MRI、超音波、核医学検査)の概要を理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	外科学総論:8回 外科学各論:3回 病理学:4回		授業終了時に同日の授業で学習した 範囲の問題演習を行う。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
定期試験		外科学概論・病理学(南江堂) プリント 等	
担当教員の実務経験の有無	無		
実務経験の内容			
柔道整復師として勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復実技Ⅲ		松岡 靖	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	実技	
授業概要 (目的)	3年次に控える認定実技審査を見据え、同審査で行われる上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について、整復法、検査法及び固定法を習熟させるとともに、臨床現場で活用できる技能の習得を目的とする。		
目標	1. 上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法・検査法・固定法が実施できる。 2. 上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概要について説明できる。 3. ローテーションで変わる様々な体型の実技相手に対して適切に実技を実施できる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	1～7回:鎖骨骨折(整復法、固定法) 8回～10回:肩鎖関節脱臼(整復法、固定法) 11回～15回:肩関節脱臼(整復法、固定法) 16回:腱板損傷(概説、検査法) 17回:上腕二頭筋長頭腱損傷(概説、検査法) 18回～20回:上腕骨外科頸骨折(整復法、固定法) 21回:舟状骨骨折(キャストライト固定法) 22回:後期中間実技試験前まとめ 23回:足関節捻挫(ブライトン固定) 24回～30回:鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼・肩関節脱臼・上腕骨外科頸骨折・腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷復習	実技 毎回ローテーションで実技相手を変えることで様々な体型・年齢や性別等に対応できるよう留意する。 評価にあたっては服装・態度も採点対象とする。また、口頭試問も実施しそれぞれの外傷に関する知識も採点に含める。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
年4回の実技試験にてそれぞれ25%ずつの割合で評価する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編(改訂第2版)(南江堂) 柔道整復学・理論編(改訂第7版)(南江堂) 包帯固定学(改訂第2版)(南江堂) ほか、資料プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として岩手県内の接骨院で勤務した経験有り。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復実技Ⅳ		露久保 範昭	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	実技	
授業概要 (目的)	・各損傷に対する診察・整復・固定法を身につける ・症状・合併症・鑑別診断・後療法などを理解し対応能力を高める		
目標	1. 損傷の概要を理解し診断が出来る 2. 患者への説明、助手に対する動作の指示を適切に行う 3. 各損傷に対する整復法、固定法が出来る		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	1. 肘関節後方脱臼(1) 2. 肘関節後方脱臼(2) 3. 肘関節後方脱臼(3) 4. 上腕骨骨幹部骨折(1) 5. 上腕骨骨幹部骨折(2) 6. 上腕骨骨幹部骨折(3) 7. 試験前まとめ 8. 試験解説 9. 肘内障 10. 橈骨遠位端部骨折(1) 11. 橈骨遠位端部骨折(2) 12. 橈骨遠位端部骨折(3) 13. 橈骨遠位端部骨折(4) 14. 橈骨遠位端部骨折(5) 15. 試験前まとめ 16. 試験解説		1. 中手骨骨折(1) 2. 中手骨骨折(2) 3. 中手骨骨折(3) 4. 第2指PIP関節背側脱臼(1) 5. 第2指PIP関節背側脱臼(2) 6. 他の指の損傷 7. 試験前まとめ 8. 試験解説 9. 肋骨骨折(1) 10. 肋骨骨折(2) 11. 上腕骨骨幹部骨折 12. 肘関節後方脱臼 13. 橈骨遠位端部骨折 14. 中手骨骨折・第2指PIP関節脱臼 15. 試験前まとめ 16. 試験解説
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
実技試験		・柔道整復学(理論編・実技編) ・プリント資料	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院勤務・接骨院運営・介護施設開設運営。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復実技Ⅴ		露久保 範昭	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・通年	60時間／2単位／30回	実技	
授業概要 (目的)	・各種損傷に対する診察・整復・固定法を身につける ・症状・合併症・鑑別診断・後療法などを理解し対応能力を高める		
目標	1. 損傷の概要を理解し診断が出来る 2. 患者への説明、助手に対する動作の指示を適切に行う 3. 各損傷に対する整復法、固定法が出来る		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	1. 足関節外側靱帯損傷(1) 2. 足関節外側靱帯損傷(2) 3. 足関節外側靱帯損傷(3) 4. 足関節外側靱帯損傷(4) 5. 下腿三頭筋肉離れ(1) 6. 下腿三頭筋肉離れ(2) 7. 試験前まとめ 8. アキレス腱断裂(1) 9. アキレス腱断裂(2) 10. 膝関節軟部組織損傷(1) 11. 膝関節軟部組織損傷(2) 12. 膝関節軟部組織損傷(3) 13. 膝関節軟部組織損傷(4) 14. 膝関節軟部組織損傷(5) 15. 試験前まとめ 16. 試験解説		1. 大腿部の軟部組織損傷(1) 2. 大腿部の軟部組織損傷(2) 3. 大腿骨頸部骨折(1) 4. 大腿骨頸部骨折(2) 5. 踵骨骨折 6. 第5中足骨骨折 7. 試験前まとめ 8. 下腿骨骨幹部骨折(1) 9. 下腿骨骨幹部骨折(2) 10. 下腿骨骨幹部骨折(3) 11. 下腿骨骨幹部骨折(4) 12. 膝関節の傷害(1) 13. 膝関節の傷害(2) 14. 股関節の傷害 15. 試験前まとめ 16. 試験解説
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
実技試験		柔道整復学 理論編・実技編 プリント資料	
担当教員の実務経験の有無		有	
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院勤務・接骨院運営・介護施設開設運営。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復実技Ⅵ		露久保 範昭	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・通年	60時間／2単位／30回	実技	
授業概要 (目的)	認定実技審査に対する固定法の習得 損傷内容を理解・判断し適宜対応ができることを身につける		
目標	1. 損傷内容の説明が出来る 2. 患者モデルや助手に対する説明や指示が出来る 3. 固定材料の選択・固定動作が出来る		
授業内容	教育内容		教育方法・留意点
	1. 鎖骨骨折 2. 上腕骨・骨幹部骨折 3. Colles骨折 4. 第5中手骨骨折 5. 下腿骨・骨幹部骨折 6. 肋骨骨折 7. 試験前まとめ 8. 肩鎖関節上方脱臼 9. 肩関節前方脱臼 10. 肘関節後方脱臼 11. 第2指PIP関節脱臼 12. アキレス腱断裂 13. 足関節外側靱帯損傷 14. 膝関節TAPE 15. 足関節TAPE 16. 試験解説		1. 認定実技審査対応(1) 2. 認定実技審査対応(2) 3. 認定実技審査対応(3) 4. 実践柔道整復実技(1) 5. 実践柔道整復実技(2) 6. 実践柔道整復実技(3) 7. 実践柔道整復実技(4) 8. 実践柔道整復実技(5) 9. 実践柔道整復実技(6) 10. 実践柔道整復実技(7) 11. 実践柔道整復実技(8) 12. 実践柔道整復実技(9) 13. 実践柔道整復実技(10) 14. 実践柔道整復実技(11) 15. 実践柔道整復実技(12)
成績評価の方法			テキスト・教材・参考書
実技試験			柔道整復学(理論編・実技編) プリント資料
担当教員の実務経験の有無		有	
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院勤務・接骨院運営・介護施設開設運営。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復実技Ⅶ		佐々木 智章	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・通年	60時間／2単位／30回	実技	
授業概要 (目的)	認定実技審査に対する診察および整復法を行う。 外傷に対する知識の習得・定着、それを利用した診察内容と方法、整復の方法をはじめ患者に対する姿勢を学ぶこと		
目標	1. 各損傷に対する診察内容と整復法を理解する。 2. 各損傷に対する診察内容と整復法を実践する。 3. 患者への説明、助手に対する動作の指示が適切に行う。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折・コレス骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 肘関節脱臼・肘内障・肩腱板損傷・上腕二頭筋腱損傷・ハムストリングス損傷 大腿四頭筋打撲・膝関節側副靱帯損傷・膝関節十字靱帯損傷・膝関節半月板損傷 下腿三頭筋損傷(肉ばなれ)・足関節外側靱帯損傷の診察と検査、整復法	認定実技審査要領に従い、審査ポイントを伝達しながら整復・検査・診察を実践する。 何度も繰り返し練習することで身につくものであるため、その大事さを理解することを留意する。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
実技試験による		テキスト・教材・参考書 柔道整復学(実技編) 適宜プリント配布	
担当教員の実務経験の有無		有	
実務経験の内容			
柔道整復師として勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
柔道整復実技Ⅷ		松岡 靖	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法
3年・前期		30時間／1単位／15回	講義
授業概要 (目的)	認定実技審査範囲の整復法・固定法・後療法・検査法をはじめ、各損傷の発生機序・症状・鑑別・後遺症等を学び、必修問題が解けるようになる。		
目標	1. 認定実技審査範囲の損傷について、口頭試問に正答できる。 2. 国家試験必修問題範囲の損傷について、正答率80%以上正答できる。 3. 臨床現場において、様々な外傷やその他鑑別が必要な疾患について、治療をスムーズに進めることができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	①定型的鎖骨骨折の診察および整復、固定 ②肋骨骨折の固定 ③上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復 ④上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定 ⑤コーレス骨折の診察および整復・固定 ⑥第5中手骨頸部骨折の固定 ⑦肩鎖関節上方脱臼の診察および整復、固定 ⑧肩関節烏口下脱臼の診察および整復、固定 ⑨肘関節後方脱臼の診察および整復、固定 ⑩肘内障の診察および整復 ⑪示指 PIP 関節背側脱臼の固定 ⑫腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察 ⑬大腿部打撲・肉離れ・大腿四頭筋・ハム ⑭膝関節側副靱帯、十字靱帯、半月板損傷の診察 ⑮膝関節側副靱帯損傷の固定 ⑯下腿骨骨幹部骨折の固定 ⑰下腿三頭筋肉ばなれの診察 ⑱アキレス腱断裂の固定 ⑲足関節外側靱帯損傷の診察、固定 ⑳包帯法 各部の名称、種類、巻き方、基本包帯法と冠名包帯法の種類と適応、実施法 ㉑柔道整復師と柔道 ㉒倫理・コミュニケーション ㉓患者の権利 ㉔リスクマネジメント ㉕医療事故と医療過誤 ㉖社会保障制度 ㉗社会福祉制度 ㉘国民医療費 ㉙柔道整復師と療養費 ㉚柔道整復師法とその関係法規	演習問題を中心に授業を進めていき、必要に応じてプリント資料を配布する。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
2回の定期試験にてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		(公社)全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編(改訂第7版)(南江堂) 柔道整復学・実技編(改訂第2版)(南江堂) 関係法規 2024年版(医歯薬出版) 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(医歯薬出版) 包帯固定学(改訂第2版)(南江堂) ほか、資料プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		有	
実務経験の内容			
柔道整復師として岩手県内の接骨院にて勤務経験あり。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
臨床実習Ⅱ		佐々木 智章	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・前期	45時間／1単位／23回	実習	
授業概要 (目的)	2年次に行う外部臨床実習に際に必要な知識・技術の習得を身につける。		
目標	1. 療養費について説明ができる。 2. 社会保障について理解している。 3. 臨床現場にて使われる検査法を理解し、行うことができる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	(1～13回) 外部臨床実習準備 (14～30回) 社会保障制度 療養費 検査法(上肢・下肢) 整復法(上肢・下肢) 運動療法 物理療法 医療面接	・外部臨床実習担当者と連携を取りつつ、必要書類を作成する。 ・教科書を要約したプリントを配布し、パワーポイントにて講義を行う。 ・教員が始めに実演にて手本を見せながら、実技練習を行う。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
出席状況、臨床実習日誌の提出などを加味して総合評価を行う。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学・実技編(改訂第2版) 柔道整復学・理論編(改訂第6版) 解剖学(改訂第2版) 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院実務経験有り。			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
臨床実習Ⅲ		外部評価	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年・集中	45時間／1単位／23回	実習	
授業概要 (目的)	臨床現場での実習を行うことで、より高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。		
目標	(公社)全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)に関して適切に実施できる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	(公社)全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)を状況に応じて適宜実施する。	実習形式 やむを得ず欠席した場合は各実習受け入れ先での追加実習を課す。	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
公社)全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)に関し、総合的に A(80点以上)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)の4段階で評価する。		各施術所・医療機関等の指示による	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として接骨院実務経験有り。□			

シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野	
科目名		講師名	
臨床実習Ⅳ		高橋 陽平	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年・通年	45時間／1単位／23回	実習	
授業概要 (目的)	学生が教科書で学んだ知識を実際の臨床に落とし込めるように、知識と臨床をリンクさせることを目的とする		
目標	1. 症例の説明ができる 2. 症例に対して検査ができる 3. 症例に対して適切な施術方法を選択できる		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	授業回数前期15コマ、後期15コマ 講義では、症例や疾患の概要を説明し、臨床における注意点を確認する。 グループワークでは、症例や疾患に対して、どのような検査、施術を選択するのがなどをグループワークする。 実技においては、筋肉、靱帯の触診、検査を中心に行い、教科書の知識を臨床に落とし込む。 実習では、附属接骨院で実際の臨床にて、接骨院の業務を学ぶ。	講義・グループワーク 実習、実技	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書	
レポートによる評価		柔道整復実技、柔道整復理論	
担当教員の実務経験の有無	有		
実務経験の内容			
柔道整復師として勤務経験あり。			